

# 注 意 報

岡 病 防 第 6 号  
平成22年 5 月 11 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

## 病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 1 号を下記のとおり発表したので送付します。

平成22年度病虫害発生予察注意報第 1 号

平成22年 5 月 11 日  
岡 山 県

### 病虫害名 果樹カメムシ類

1. 発生が予想される地域  
県下全域のモモ、ナシ等
2. 発生が予想される時期  
5月中旬～8月上旬
3. 予想される発生量  
多
4. 注意報発表の根拠
  - (1) 前年のスギ・ヒノキの花粉飛散数に基づく果樹カメムシ類越冬世代の発生量予測式によると、4～7月の予察灯誘殺予測数は、赤磐市のチャバネアオカメムシでは1,198頭で平成（340頭）の3.5倍に達する。また、津山市のチャバネアオカメムシでは、636頭で平成（328頭）の1.9倍、クサギカメムシでは、682頭で平成（198頭）の3.4倍に達する。
  - (2) 4月の気温は平成と比較して低く経過したが、今後、気温の上昇に伴って発生量が急増することが予想される。
5. 防除対策及び防除上の参考事項
  - (1) モモ、ナシでは袋掛け前と果実肥大期の果実被害が懸念される。
  - (2) 幼果期から収穫までカメムシ類の発生に応じて薬剤散布を行う。モモ、ナシにおける防除薬剤は表 1 及び表 2 による。
  - (3) カメムシ類は主に夜間に果実を加害するので、薬剤防除は夕方に行うとより効果的である。
  - (4) 周辺にスギ・ヒノキ等の寄主植物がある果樹園では飛来数が多くなり、果実被害が増加する。
  - (5) 黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果がある。ただし、黄色灯を点灯した場合でも、クサギカメムシには効果がないこと、カメムシの発生が多いと十分な効果を得られないことなどから、薬剤による防除を徹底する。
  - (6) 樹全体に目合い 4 mm 以下の網を掛けてカメムシの寄生を防ぐ。ただし、すでにカメムシが寄生している樹に網を掛けると大きな被害を受けるので、網掛け前には必ず薬剤防除を行う。

(7) 使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。

(8) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ (<http://www.w.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>) で確認できる。

表1 モモのカメムシ類の防除に使う主な薬剤（平成22年5月10日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			系統
	使用時期	希釈倍数	使用回数	
アーデント水和剤 <sup>1)</sup> 2)	収穫前日まで	1,000倍	3回以内	
テルスターフロアブル <sup>1)</sup> 2)	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
MR. ジョーカー水和剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	合成ピレスロイド系剤
アグロスリン水和剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	2,000倍	5回以内	
アディオン乳剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内	
モスピラン水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	ネオニコチノイド系剤
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000~4,000倍	3回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	10,000倍（1万倍）	2回以内	

1) 水産動植物に対して毒性があるの養魚場周辺などで使用しない。

2) これら以外の合成ピレスロイド系殺虫剤はハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので使用を控える。

表2 ナシのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（平成22年5月10日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			系統
	使用時期	希釈倍数	使用回数	
アディオン乳剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
スカウトフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
テルスターフロアブル <sup>1)</sup> 2)	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
ロディー水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000倍	2回以内	合成ピレスロイド系剤
アーデント水和剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内	
MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2,000倍	2回以内	
マブリック水和剤20 <sup>1)</sup>	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内	ネオニコチノイド系剤
モスピラン水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000~10,000倍	2回以内	
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000倍	3回以内	

1) 水産動植物に対して毒性があるので養魚場周辺等で使用しない。

2) これら以外の合成ピレスロイド系殺虫剤はハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので使用を控える。

(参考) この情報は、農林水産総合センターホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www1.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec\\_sec1=22](http://www1.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec_sec1=22)